

3月11日午後2時46分 その時あなたは・・・

国内観測史上最大M9・0の巨大地震発生

3月11日、午後2時46分頃、激しく長い揺れが市を襲った。これまでに経験したことのない立っついてられないほどの激しい揺れに、市内の住宅、道路、公共施設などが損壊した。大地震が来ると予想されていた中、今回の大地震でどのような対応ができたのだろうか。ただ、その場から動くことができず、何もできなかつた方も多かつたのではないだろうか。今回、改めて地震の恐ろしさを知り、一人ひとりが防災というものを、もう一度考えてみるべきではないだろうか。

想定外の巨大地震

今回の地震は、単一ではなく、3つの地震が連動したものと解析されました。震源域は、岩手県から茨城県まで南北約500キロメートル、東西約200キロメートルにおよび「5分前後かけて連続して発生するという、複雑な起り方をしている。極めてまれで、気象庁の観測で初めての経験」と気象庁職員が話すほどです。

平成7年に発生した阪神淡路大震災はM7・3、その数百倍にも相当するM9・0のエネルギーによって激震は数分間も続きました。その後、想定を超える津波が東日本の広い範囲に押し寄せ、多くの尊い命、思い出の詰まった家、大切な家族を一瞬にして奪ってしまいました。

つくばみらいでは

M9・0の巨大地震は当市にも衝撃を与えました。市役所谷和原庁舎で震度6弱、同伊奈庁舎では震度5強。これまでに経験したことのない激しい揺れによって、市内各地で住宅や公共施設など多くの建物が損壊したほか、道路や上下水道施設に大きな被害もたらされました。

市では、片庭市長を本部長とする災害対策本部を立ち上げ、市内の被害状況、独居老人の安否

確認、避難所の開設と市民の安全を確保することに努めました。

市内の被害状況は、家屋の一部損壊などが約1400件、道路の亀裂、陥没が約110箇所（ともに4月5日現在）。また、地震発生直後の停電の影響により、県企業局水道浄水場からの供給が停止、その後通常時の3〜4割での供給となり、谷和原浄水場、久保浄水場とも配水池水位の低下に伴い、配水圧を下げての給水。それにより、地区によっては水の出が悪くなったり、出ない箇所がありました。市民の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

今、私たちに できることは？

想定外の大地震を経験し、今できることは何でしょうか。それは、地震に対する考え方を改めることではないでしょうか。「大地震などすぐには起きない」と考えていた人が多いことと思います。しかし、起きてしまったのです。今後も、余震による激しい揺れ、南関東直下型地震などが予想されています。その時、今回の大地震の経験を活かせるよう、心の準備、あらゆる準備が必要です。

私たち一人ひとりが、日頃から過信することなく、「心の防波堤」を高くして、万一に備える以外に命を守るすべはないのです。